

基本理念	分野	福祉課題	福祉課題の具体的実情とその背景	具体的な取り組み（条件づくり）	行動計画
ささえ愛、まもり愛、安心して暮らせる豊田校区	高齢者	<ul style="list-style-type: none"> ふれあい・いきいきサロンの内容及び参加者の固定化 高齢化率に伴う高齢者の支援体制 	<ul style="list-style-type: none"> サロンは10地区で開催されているが男性参加者が少なく、内容がマンネリ化している 男女でプログラム内容の好み異なるため、特に男性向けの内容について検討する必要がある 家にこもりがちな高齢者（特に男性が多い）への支援が必要 サロン参加者は減少傾向（80代が多く、60から70代に呼び掛けはいるが参加に繋がらない） 一人暮らしの見守りに行っても、応答がなく在宅が確認できないときが多い 命のバトンの周知不足 独居、高齢者世帯の増加に伴い閉じこもりが心配 	<ul style="list-style-type: none"> サロン参加者からの要望・意見を取り入れ、魅力あるサロン活動を目指す サロン運営者間での情報共有を図る 男性が集まりやすい居場所をつくる（男子サロン等） 老人会とサロンの協働 命のバトン事業への協力 	
	子育て	<ul style="list-style-type: none"> 世代間交流の希薄化 転入してきた子育て世代が地域との交流がなく孤立しがち 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の行事に子どもが参加しない地区がある 障がいがある等の子どもの情報が不足している 	<ul style="list-style-type: none"> 子育て世代へ地域行事（準備も含めて）への参加を促す 地域との交流を図るためウォーキングや一斉清掃は親子連れでの参加を促す 料理教室などで世代間交流や子育て世代の交流支援を図る 	<ul style="list-style-type: none"> 住民主体の活動の更なる活性化 ふれあい・いきいきサロン、いきいき百歳体操の充実
	暮らし	<ul style="list-style-type: none"> 少子高齢化が進み地域課題は多様化しているが、福祉事業所の数は増えていない 近くに店がなく買い物不便 	<ul style="list-style-type: none"> 困った時の相談窓口及び機関がわからない 地域の担い手育成が難しい 8050問題 1軒1軒が離れており隣近所の様子分かりにくい等、近所付き合いが難しい場合もある 交通の利便性が悪く、日頃の交流や買い物等が不便 各種団体役員の引継ぎ等、情報共有が不十分 	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民にも校区社協活動への協力を依頼する 校区社協を理解してもらうため、住民へのPR活動を図る 若い世代に行事や事業を周知できるよう、SNS等を活用する 役員を若い世代の方にも依頼し、次世代につなげていく 地域にある施設等にも活動に参加してもらう 困りごと、心配ごとの相談先一覧表を豊田校区全世帯に配付する 8050問題の相談先の周知及び関係機関との連携 回覧板等を持って行く際には、安否についても気にかけるようにする 困りごと等を把握するため、アンケートを実施する 	<ul style="list-style-type: none"> 校区社協活動の周知及び担い手の発掘を目的とし、広報の充実を図る 校区内の福祉事業所等と連携強化 困りごと、心配事相談の支援体制の構築 災害時への備えのため、平常時からの情報共有に努める
	防災	<ul style="list-style-type: none"> 災害時要援護者避難支援制度の登録者における、80歳以上の高齢者（独居高齢者、高齢者世帯）の割合が高い。 ハザードマップ作成が、全町内では取り組まれてない。 地域避難場所の把握（指定避難所は豊田小学校のみ） 	<ul style="list-style-type: none"> 要援護者の支援体制づくりが不十分 最新の名簿及び支援プランの情報共有が出来ていない ハザードマップへの理解が不足している 指定避難所が校区外の避難所の方が近い地域もある 障がいがある方の避難所がない 小学校まで行くのが水害の場合でも橋を渡らなければならない地域もある。 	<ul style="list-style-type: none"> 災害時に備えた、平常時からの災害時要援護者支援の仕組みづくり 登録者の情報及び避難ルートの確認及び共有 防災における関係団体・関係機関との連携 	